

芥明高等学校 平成 2 5 年度学校評価表

1 学校教育目標						
本校の校訓「報恩」「勤労」「創造」を念頭において、” 地域に根ざし、夢に挑戦する学校づくり” ～天草の宝、子どもの健全育成～ をスローガンに地域の人々に愛され、期待され、生徒が夢や目標を持ち、夢に挑戦することで、自分に対する自信と他者に対する思いやりの心を育成する学校づくりに努める。						
2 本年度の重点目標						
○どんな学校づくりをするか（高校再編整備） ①生徒が行って良かった学校 ②保護者が子どもをやって良かった学校 ③教職員が勤めて良かった学校 ④自分の子どもをやりたくなるような学校 ○教育は人なり（3つの火を燃やそう） ①一隅を照らす灯 ・教職員ひとり一人が個性と専門性を発揮し、さらに人間力を磨く。 ②石中の火 ・火打ち石から火花が散るように前例踏襲でなく果敢にチャレンジする。 ③燎原の火 ・教職員が仲良くスクラムを組んで野焼きの火のように協働する。 ○目指す生徒像・目指す教師像（5つの誓い） ①口は人を励ます言葉や感謝の言葉を使うために使おう。 ②耳は人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう。 ③目は人の良いところを見つけるために使おう。 ④手足は人を助けるために使おう。 ⑤心は人の痛みがわかるために使おう。						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	学校経営方針	学校の教育目標、スローガン及び育てたい生徒像の周知徹底	教職員・生徒・保護者へ説明し、生徒95%、保護者70%以上の認知度をを目指す	職員会議・育友会総会・生徒集会・進路説明会などで説明し、会報及び学校ホームページ等に掲載する。	B	生徒への認知度については成果があったが、保護者への説明機会を更に示す必要がある。掲示教育の充実と学校目標に添った話題を出していく必要がある。
	開かれた学校づくり	学校ホームページの大幅な更新	学校ホームページを随時更新を実施し、最新情報を発信する。	ICT委員会・総務部を中心に学校ホームページの更新を随時行い、各部からの情報を計画的	B	HPに掲載する写真や記事を増やす必要がある。各学科や学年で保存しているデータを

				に発進する。		集約するために文書セキュアの共通フォルダの活用を浸透させていきたい。
学力向上	授業の工夫・改善	わかりやすい授業の実施と授業研究	各教科で年1回以上の研究授業および授業研究会を実施する。生徒による授業評価で平均4点以上を目指す。	各学期末に担当する全クラスを対象にアンケートを実施する。授業は原則として常時参観可能にする。保護者等への公開授業週間に研究授業を実施する。	C	研究授業は各教科に日程等の計画を依頼していたが、積極的に計画をする教科が少なかった。公開授業週間に参観して保護者はごく少数だった。授業評価は学校の意図と生徒の思惑に食い違いがある。
キャリア教育 (進路指導)	進路指導の充実	進路指導の充実	各学年・学科の連携と継続した進路指導を展開する。進路決定100%を目指す。 二者面談・三者面談の充実や職員研修などでの情報提供。	①2年3学期には受験先を決定できるようにガイダンス等の時期を設定する ②課外・模試の時期及び受講・受験を促すことにより進学意識を高める。 ③進路相談会・オープンキャンパスの情報を提供し、積極的な参加を促す。 ④上級学校や会社の情報を担任に伝え、面談の資料とする。	B	・卒業生の進路実現に関してはほぼ達成された。(進学100%就職98.4%) ・入学時からのあらゆる場面での進路意識高揚の取り組みが今後の課題である。 ・積極的に情報提供はできたが、まだまだ不十分な面も多い。 ・学年団への情報収集の伝達や整理がまだ追いついていない面があった。
生徒指導	基本的生活習慣と規範意識の定着	清々しい整容と挨拶の励行	・交通違反件数を昨年比、年間10%減らす。また、再犯をさせない。 ・特別指導件数を10%減らす。	・一斉登校指導や遅刻指導及び下校指導、試験時の校外巡回指導や全校集会時の指導 ・外部講師による講話 ・違反者の交通法規再学習 ・自動車学校での学科・実技講習会の実施	B	一斉登校指導や交通講話などを行い、交通違反は50%削減した。また、特別指導件数も24%減の25件であった。基本的生活習慣や規範意識の定着については今後粘り強く指導していく必要がある、。
	高校生活の充実	諸活動の計画と実行	・1年生の部活動加入率90%以上(4月)。 ・校内行事への積極的な取組。	・学期2回行われるクラブ・DAYSなどの取り組み。 ・体育大会、苓明祭など学校行事の充実。 ・清掃ボランティアに年間一人1回以上参加する	B	1年生の4月当初の部活動加入率は94.5%で目標を達成したが、その後退部者も多く課題が残る。体育大会、苓明祭では生徒の活躍が目立った。清掃ボランティアへの参加数は若干減少したものの、ボランティア精神の育成につ

						ながっている。
人権教育の推進	差別やいじめのない学校・学級づくり	生徒の人権感覚を育てているか	いじめ事案が0であること。 学期毎年3回の授業年2回人権標語募集年1回講演会実施	人権教育指導案の作成・検討・改良 生徒人権委員会通信発行 講演会感想文集の作成 講師発掘と選定の充実	C	いじめを許さない宣言文作成に生徒が取り組み、人権委員会通信も発行できた。その後の取り組みが今後の課題である。
	「命を大切にす る心を育む指導」	生徒の心に響く多様な多様な指導の実践	「命を大切にす る」＝「今を精一杯生きること」、命を輝かせること。	各学年保健4時間、家庭1時間、LHR2時間（農業関連学科4時間）ユニット構成での実施。全校集会での講話を実施。	B	ユニット構成での実施＋本校農業関連学科と家庭科での授業内容並びに実験・実習がこの趣旨を体現している。
読書指導	豊かな心の育成を目指した読書活動の活性化	図書館利用率（図書の貸し出し数）の向上	生徒貸出数・1人あたり年平均6冊を目指す。	朝読書の定着、図書館便りの発行、展示活動、生徒図書委員会活動の充実を図る。	B	生徒貸出数・1人あたり年平均は6冊となり、目標に達した。今後も生徒をより読書に親しませるための諸活動を充実させていく必要がある。
安全教育	事故防止の徹底	危機管理マニュアルに沿った取組 校内の安全点検	安全点検の徹底。普段からの事故防止。発生したときの対応	安全点検の充実及び防災避難訓練の徹底。	B	防災訓練は実施できた。救急処置対応の研修等を実施し、校内緊急体制の見直しにも繋がった。
連携	保護者や地域などとの連携	保護者や地域などとの連携。適応指導研究協力校との連携	保護者と連携し、マナーの向上を目指す。 地域社会への貢献	保護者と連携し、あいさつ運動、交通指導を実施する。 地域清掃ボランティアを毎月一回実施する。地域防犯ボランティアへの協力。 育友会と生徒会の意見交換会の実施。	B	育友会本部役員が朝の交通指導やあいさつ運動の回数増やしたい。地域清掃ボランティアへの参加者が減少傾向にあるが、地域（防犯）ボランティアへの参加については、自主的に多くの参加者があった。

4 学校関係者評価

（1）評価できるとされた点

- ①学校行事においては生徒が生き生きと楽しく参加しており、充実したものになっている。保護者の参加も多く評価も高い。
- ②外部講師（地元中小企業代表他）による面接指導実施については、生徒はもちろん指導される先生方にも良い影響があったのではないかと評価されている。
- ③地域ボランティア清掃活動は、毎月1回実施されており、地元からの評価や感謝の声も多い。
- ④進路決定状況（就職）については、昨年より求人数が増加し、ほぼ決定していることは評価できる。更に地元への就職を充実させてほしい。
- ⑤昨年度より貸出冊数がさらに増え、生徒一人あたりの年間貸出冊数の平均は6冊となった。（昨年度は一人あたり年間5.3冊）

（２）課題として指摘された点

- ①スマートフォン・携帯電話を使用しながら下校する姿を見るが、非常に危険である。保護者を含めて指導する必要性を感じる。
- ②これまでの早期離職者の追跡調査を今後検討しなければならない。
- ③部活動の活性化を今後考えていかなければならないが、アルバイトの許可等も関係しているようである。保護者の協力と理解を今後積極的に説明していく必要がある。
- ④反省を今後にどう活かすか。どうしても年度末から年度初めにかけて行事に追われ、反省を活かせてない現状がある。ＰＤＣＡサイクルを活かす。

５ 総合評価

- ①体育大会・芥明祭・ウォークマラソン、クラスマッチ等は、生徒にとって楽しく充実した行事となっている。３年生の保護者からの評価が高く、３年間を通しての活動の中で、自己肯定感が高まっていると思われる。
- ②授業の改善・工夫について、公開授業、授業評価とも開始して７年以上が経過し、導入の趣旨を理解している教師が少数になっており、生徒に趣旨を伝えられない。更に公開授業の低調な参観数、研究授業への消極的姿勢も原因であり、研究授業のテーマをしぼって実施する必要性もある。
- ③段階的（学年ごとの）な進路指導の取り組みができ、学年団との連携により進路決定率９９．３％（進学先決定１００％、就職先決定９８．４％）と高い進路決定率となっている。
- ④生徒指導については、指導件数は今年度も減少したものの、指導した生徒数は逆に増加した。指導に追われる傾向があったが、今後教職員全員で更に徹底した取り組みが必要となってきている。一方、中途退学者数は減少した。
- ⑤人権教育の充実が、いじめのきっかけに教師・生徒が気付く力を向上させ、いじめが大きくなることを未然に防いでいる。命を大切にすることについては、普段の授業及び実験・実習等で実際の生き物を教材として取り扱っているのも、身近な問題として考えることができる。自分自身の生命を守るという視点での安全教育も、教師が持つ危機管理マニュアルに基づき、防火火訓練でも適切な行動がとれていた。
- ⑥部活動については加入率は低く、一部の部活動は頑張っているが全体的には、活動内容や大会成績とも満足な結果とは言えない。
- ⑦地域ボランティア清掃活動は８年目を終了したが、参加数がやや減少している。ただし、福祉施設、保育園・幼稚園、地域行事へのボランティア参加数も多く、生徒のボランティア精神の育成につながっている。
- ⑧芥明高校に「入学してよかった、入学させてよかった、勤務してよかった」という割合が高く、生徒・保護者・教職員とも満足度が高かった。

６ 次年度への課題・改善方策

- ①学校ＨＰを新しいシステムに切り替えた。芥明高校ＰＲのため、各部署や学科、活動の協力を得てさらに充実させていく必要がある。（広報活動の充実）
- ②シラバス・研究授業計画・授業評価等を更に有効に教育活動に活かしていかなければならない。
- ③整容面での指導徹底と日常的指導の強化。学年間の指導基準を更に統一し、効果的な指導を実施する。また、スマートフォン・携帯電話の使用マナーの研修の充実と指導の徹底。
- ④進学希望生徒の校内選考基準に「模試結果」「課外出席状況」等を加味し、進学に対する意識高揚を図る。更に「農水・商業模試結果」も加味する。
- ⑤学校農業クラブ県連事務局に向けての準備として、校内諸行事の調整と綿密な計画と実行を全職員で協力する。
- ⑥農場・施設を含めて、施設案内や作目状況並びに作業・実習手順等の案内（紹介、説明）など安全性を目的も含め、掲示教育を充実を図る。
- ⑦ノーミーティングデーが導入され、学年会の時間が週一回確保された。職員研修を図るなど時間を有効に活用する工夫を行う。
- ⑧生徒と向き合う時間の確保の観点からも、職員全体の共通理解の前段階として、委員会での討議を十分にすることが必要である。